

# キッズ キャンパス 2014

ゆめ

## キッズキャンパスとは・・・

「キッズキャンパス」は、幼児・児童を対象とした広島市立大学芸術部の公開講座で、広島日野自動車株式会社の助成を受けて2005年よりスタートしました。

生涯学習への取り組みの一環として、芸術部の教員と学生がプログラムを考案し、子どもの創造性の喚起と育成に取り組んでいます。今年は、発見する楽しさや創造する喜びを、子どもたちに経験してもらおうと、「ゆめ」をテーマに、講座、展覧会、ワークショップを開催しました。

子どもたちを取り巻く環境をより良いものにするために、美術館や教育機関とも連携を取りながらプロジェクトの充実をはかっています。

## 鑑賞プログラム

日時：8月17日(日) 14:00-15:30

会場：広島市現代美術館

## 制作プログラム

日時：8月24日(日) 9:30-15:00

会場：広島市立大学

対象：3歳-小学2年生



program 1  
みる

## みて・はなそう

講師 山下樹里 (広島市現代美術館学芸員教育普及担当)  
松尾真由美 (広島市立大学芸術学部油絵専攻講師)

広島市現代美術館で開催した特別展「第9回ヒロシマ賞受賞記念ドリス・サルセド」展とコレクション展「2014-II どちらでもない／どちらでもある」を鑑賞して、作品から感じたことや気付いたことをみんなで話しました。3歳～小学2年生の子どもたちには、作品背景や価値よりも、目の前に何が見えるか、面白いかどうかが重要なようで、対話の内容も何が見えるかから始まりました。サルセドの「ア・フロール・デ・ビエル」は、無数の薔薇の花を糸で縫い合わせた作品、「レガリアム・ムダ」は、二つの机が土の塊を挟んで重ねられ、その隙間から草が伸びている作品です。どちらも、武力抗争による犠牲者への鎮魂の意味が込められているのですが、子どもたちは、作品の大きさや花の香りに驚き、迷路のような展示方法や本物の草の芽に興味を持っていました。コレクション展のエイドリアン・バーグ「シェフィールド公園1985-86秋」は、画面にいくつもの木や池があり、見続けるうちに、それが風景なのか模様なのか不思議な気持ちになる作品です。子どもたちは、作品に近寄り、遠ざかったりしながら、「池がたくさん見える!」「春のけしきだ!」と感想を話し、柳幸典の「アキツシマ50・1」の前では、目を輝かせて作品の隅々まで見入っていました。ひとつ一つ、「これはプロペラだ!」「救命ボートだ!」と言い当てながら、長い時間鑑賞している子どもたちの姿はとても印象的でした。

協力：広島市現代美術館



## かけよう! みんなで ゆめのはし

講師 及川久男 (広島市立大学芸術学部視覚造形分野教授)

子どもたちと教員・学生がチームとなり、水鉄砲や三輪車などの様々な道具を用いて、約3m×40mの布生地に絵を描きました。始めは慎重に絵を描いていた子どもたちも、慣れてくると大胆な表現が出来るようになり、最終的には全員がキャンパス全体を使って自由に絵を描きました。完成した作品は、学部棟と図書館を結ぶ連絡橋から天井画のように吊るして展示しました。自由な創作活動を通して子どもたちの発想力と創造性を育てたいと思い、また、子どもたちの豊かな発想や積極性は、学生にとっても良い刺激となりました。



program 2  
つくる



program 3  
つくる

## へんしん

講師 諏訪敦 (広島市立大学芸術学部油絵専攻准教授)

広島土地由来の山や海でとれたものを素材にしながら、「自然の化身」として子どもたち自身が被る仮面を、指導にあたる学生たちと相談しながら親子で制作しました。それは、楽しい工作を通し、例えば鱈の殻から日本で最も古い部類の顔料である胡粉(ごんが)、あるいは楮(こうぞ)や三椏(みつまた)から和紙が出来るように、郷土の自然から食べ物や身の回りのものが生まれる事への理解も促す事を目的にしたものでした。最後にはみんなで大きな青い布で作った川に、胡粉で鱈の鱗を描きあげることで、手作りの巨大な龍を蘇らせるという演劇的なイベントで驚きを体験し、全員変身した姿で獅子舞や龍舞のように、歌いながら龍をかついでパレードをしました。



program 4  
つくる

## みあげて ゆめのいりぐち

講師 松尾真由美 (広島市立大学芸術学部油絵専攻講師)

芸術学部のエントランスには、美しい円形の吹き抜けがあります。その円形を覆うように布を張ると、天井のようにも、空へ広がる窓のようにも見えるのではと想像しました。綿布を縫い合わせて直径7.85mの円形キャンパスを準備し、中心から、太陽、空、地上と3つの部分に分けて、みんなで大きな絵を描きました。地上には町や自然や好きな物を、空にはみんなが元気に飛んでいるところを、太陽には一人ひとりの手をシルクスクリーン版画でプリントしました。丸い吹き抜けに飾った大きな絵は、子どもたちが未来へ向かって手を伸ばし、気持ち良さそうに飛翔しているようでした。

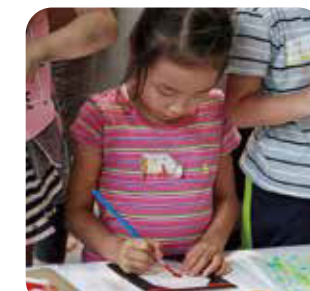


つくる

## お楽しみプログラム

講師 大学院芸術学研究科学生 / 芸術学部学生

メインプログラムから発案し、親子で簡単にできる3つのプログラムを準備しました。マーブリングした紙でコラージュしてフォトフレームにしたり、三角形の布に絵を描いて自分の旗を作ったり、輪切りの木に描いた絵を学生がハンダゴテでぞった焼き絵のバッジなど、身近な材料で工夫しながら楽しめるものを考えました。



おもいでのおぞきまど



フレフレフラッグ!



バッジにかこうちいさなゆめ!



# キッズキャンパス 2014展 わくわくアートワークショップ

**展示** 日時：11月28日(金) - 12月2日(火) 10:00-17:00 / 会場：広島市立大学芸術資料館

**ワークショップ** 日時：11月29日(土)・30日(日) 10:00-17:00 / 会場：広島市立大学芸術学部  
対象：3歳 - 小学生



## キッズキャンパス 2014展

「キッズキャンパス 2014」で制作した作品と制作風景を紹介した展覧会です。「かけよう！みんなでゆめのはし」は、芸術資料館のライトに映えて美しい色彩を放ちました。「へんしん」で制作したマスクは、和紙の土台と自然素材の飾りが調和して温かみを伝え、吹き抜けに展示された「みあげて ゆめのいりぐち」は、エントランスに明るさを加え、往来する人々を迎えているようでした。

### キッズキャンパス 10周年！

2005年からスタートしたキッズキャンパスは、今年10周年を迎えました。これまで支えて下さった全ての皆様にお礼申し上げます。これからも、美術の力と新たな可能性を皆様と一緒に追い求めたいと思います。

広島市立大学芸術学部油絵共同研究室  
〒731-3194 広島市安佐南区大塚東 3-4-1  
TEL/FAX 082-830-1636



program 5  
つくる

## わくわくアートワークショップ

「キッズキャンパス 2014」展と同時にワークショップを開催しました。親子一緒に楽しめる「ゆめ」をテーマにしたプログラムです。

A：1時間のプログラム  
B：随時参加のプログラム



### A ゆめのたからばこ

講師 大学院芸術学研究科学生 / 芸術学部学生  
一枚の紙から箱を作り、その中に好きな絵を描いて、ビーズやドングリなどを入れて、中にミラーシートを挟めば、あらふしぎ、右側と左側で異なる二つの世界が見えました。



### B ポンポンぽんちょ

講師 大学院芸術学研究科学生 / 芸術学部学生  
半円形の布にアクリル絵具でスタンプをしてリボンをつければカラフルポンチョのできあがり。夢の森に住む人のポンチョです。



### B あつまれ！ゆめのもり

講師 大学院芸術学研究科学生 / 芸術学部学生  
紙を葉っぱや虫など好きな形に切って色を塗り、夢の森に住む人に贈る絵ハガキを作りました。



### B ユメセイジン

講師 大学院芸術学研究科学生 / 芸術学部学生  
紙粘土をぎゅっと握ってできた形に木の枝やボタンをつけて、夢の森に住む生き物を作りました。

# キッズ キャンパス 2014



主催：広島市立大学芸術学部  
協賛：広島日野自動車株式会社

